

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>みんな明るく元気に暮らせる。 みんな一緒に助け合い自立を目指し暮らす。 みんな笑顔で親切、丁寧、心が温まる。</p>	<p>○</p> <p>その人らしさをモットーにみんなが助け合い笑顔で生活できる場所を作り、地域の方達との交流の場になるように取り組んでいきたい</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員が常に目につく場所に掲示し実践できるように取り組んでいる</p>	<p>○</p> <p>職員、入居者共に毎日の生活を楽しく助け合い、その中にも自立を心がけていく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の行事や当施設での行事(介護者教室、夏祭り)等、地域、家族と一緒にいき、地域、家族の協力や理解を得ている。 運営推進会議も毎回参加して頂き、折につけ協力を得ている。</p>	<p>○</p> <p>地域、家族、入居者、職員全員で、誰にでも親しみをもってもらおう施設を目指し地域に根ざした施設にしたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の方達とは散歩、外出の際の声掛けを始め、火災訓練の協力、毎日の食卓に使用する野菜を頂いたり、何時も会話できる日常的つきあいをしている。</p>	<p>○</p> <p>今後共近隣との付き合いを行い、近所ならではの付き合いを今後共取り組んでいきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>年二回の地域の出ごとや、長生会、地域が開催する行事への参加等、利用者の方達と一緒に交流を図っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も地域の方達との交流を大切に、参加の声掛けにもできるだけ多く参加できるように心がけていきたいと思っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の公民館を借りて介護者教室を開き、その際に色々な相談を受けたり、地域が開かれる長生会への参加を行い、話を聞いたり今後も続けていきたいと思っている。	○	今年度は地域の長生会への参加も出来たので、今後も続けていきたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を毎年実施する事で、職員、管理者の見直しの意識づけができることと、自分達を見直すよい機会である事を全員が理解し、改善する機会となっている。	○	改善項目に上げた事を全員で検討し、入居者の方達が居心地のいい場所を提供できる、工夫の機会となることを今後共続けていきたいと思っている。例えば、「入居者の身体的低下に伴いその人にあった椅子の工夫や今まで正座できた人が、転倒を機会に正座が出来なくなった人の居場所作り等」
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はできるだけ家族会を一緒に行ったり、運営推進会議に提示する内容も職員のミーティングの際話し合ったり、会議で決まった内容を報告し、家族には簡単な議事録を配布する等、常に向上するように努めている。	○	外部評価での改善指導をよききっかけとし、入居者の方達が少しでも過ごしやすい環境を作る為のきっかけとなるようにしたいと思っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の交流として、夏祭りや地域で開催される除福の里祭り、宅老所で開催されるミニコンサートも地域の方達と一緒に参加したり交流を図りながら、サービスの質の向上に努めている。	○	今回、市町村担当者の方のご協力で、施設の無料利用が出来た様になったり、担当者の意見を聞く機会も多くなり質の向上を今後も取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用される方は不在だが、研修会等には必ず参加するようにしている。	○	職員全員が理解すし、必要な方が来られたら活用したいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修の参加及びミーティングの際に虐待についての話し合いを行っている。	○	今後も虐待がないように細心の注意を払い職員の意識づけを行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際は家族の説明を十分行うと共に、不安に思う事等を聞き、施設の移行の際は担当の支援専門員を同席してもらい、説明を行い理解を得ている。</p>	○	入、退居の際の説明は十分に行い不安のないように心がけたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満、苦情等その都度解決し、本人が言えない場合は家族に協力して頂き聞いてもらい、できる範囲本人が望むようにしている。</p>	○	意見、不満、苦情を溜め込まないように、その都度利用者の気持ちを優先して行く。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりは毎月文書で行ったり、家族が来荘された折に報告を行っている。又、金銭管理は一切行なっておらず家族にお願いしている。身体的、精神的異常があった場合その都度電話連絡を行ない、記録にも残すようにしている。</p>	○	今後も家族の協力を得て異常のある時はその都度連絡を行ない家族の安心を図りたいと思う。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見や不満は場所を変え事務所等で聞き、直接話づらいう事は意見箱を設置している為に入れてもらうように家族会の折等に説明している。実際何か家族からの意見等は電話をされたりしている。意見等は職員にも周知してもらっている。</p>	○	家族会の折や毎月の支払いの折に直接話しを聞く事が多く、今後も話やすい雰囲気を作りに努めていきたいと思っている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のミーティングや毎朝のミーティングの折に職員の意見を聞き提案を職員全員で話し合い反映させている。</p>	○	職員の意見も重要な施設の運営方法で一緒に考え、一緒に行動する事で質の向上にも繋がると思っている。今後も質の向上に向け反映していきたいと思っている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月の勤務表作成前に希望休を書いてもらい、職員の確保に努めると共に、利用者の状態により必要な時間帯に職員の確保ができるように調節を行っている。その為の話し合いを月1回行っているミーティングの折に決定している。</p>	○	今後も利用者、家族への支障がないように調整を行っていく。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在職員の入れ替わりはないが、できるだけ離職を最小限度に抑え利用者の方達の不安対象にならないように心がける。又入れ替わりがある場合は半月の期間を同時に勤務し、利用者に顔を覚えてもらいダメージのない工夫を行っている。</p>	○	職員の離職は防げないので利用者の方達にダメージをかけないように心がける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は職員を交代で参加してもらい、その月の研修を受けた職員がミーティングの折に報告する。又研修の担当制もっている。</p>	○	職員の自信の為にも研修は重要で今後も機会があれば研修の参加又は、発表の場の提供を行っていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近所にある宅老所や他のグループホームとの交流を行い、ネットワークづくりとして、ブロックで行っている研修、記念病院で行っているグループホームの会合等にも参加し、質の向上に努めている。</p>	○	管理者、職員共に質の向上を図る為に今後も参加できる交流会や勉強会に参加したいと思っている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月一回のミーティングの折に職員の意見を聞いたり、二ヶ月に1回程度職員と共に食事会を行い、ストレス軽減を図っている。</p>	○	ストレスがたまると離職にも繋がり、利用者の方達に対してのサービスも悪くなると思うので、今後の職員の意見等話し合いの場を持ちストレス軽減を図りたいと思う。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各自が工夫して利用者の方達に対して行う業務の内容やレク等努力している時又は、向上心をもって仕事に励んでいる時は、ミーティングの折に誉めたり、金銭的アップに努めている。</p>	○	職員だけではなく、誰でも誉めたり認められる事は「やる気」をおこすきっかけとなると思うので今後も職員の向上心が働く工夫を行っていききたいと思う。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>個人的に相談がある場合は個人的に相談にのり、困っている時や不安をもっておられる時は、個室にて話をよく聴き受け止める努力を行っている。</p>	○	どんな時でも相談しやすい雰囲気をもつように心がけたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談にはいつでも相手できるように心がけ、家族会の折に相談される場合は家族会の中で決定していき、ホームで言えない事は電話での相談は随時受けている。</p>	○	不安が少しでも軽減するようにできる範囲は解決する工夫を今後も行い、電話での相談は今後も続けていききたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が他のサービスを希望される場合は、できるだけ詳しく説明を行う、又は使うサービスの説明に来てもらう等の配慮を行っている。ホームでの支援は家族、本人と一緒に支援の内容を考え相談の内容にできるだけ応えるようにしている。	○	他のサービスは内容が分からず困っている方が多いと思うので自分の知っている内容の説明を行う。又は実際のサービスを行っている方に来て頂き説明をして貰うなどの配慮を行って行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始前に本人、家族と一緒に来荘してもらい、日中と一緒に過ごしてもらい、又は1日宿泊して貰う等、雰囲気をおなじわってもらっている。その際の料金として食事代を頂いている。	○	本人、家族に説明を行い実際に利用してもらい納得された上で入居して頂きたいと思っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方達と一緒に過ごし入居者の喜怒哀楽を一緒に行う事で入居者の方達の本来の気持ちを伺う事ができる。又、些細な事ではあるが食事の作り方でも入居者の方達に聞いて作る等、生き生きとした場面の提供にも繋がっている。	○	喜怒哀楽を共にすると言う事は大変大事な事だと思うので、介護側だけの気持ちで接しないように心がけていきたいと思う。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員間でも家族の悩みを共有し、本人を少しでも支えられる立場になるように努力している。	○	家族が出来ない部分を、家族の変わりになって行う事を基本にもち家族が少しでも安心できるように努めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家庭で介護されていた方は離れる事により、よりよい関係が築かれるようになられた例もあるので、本人、家族の関係がより良いものになるように支援していきたいと思う。	○	離れる事でより良い関係ができるように今後も援助していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から馴染みの友達の来荘や、昔からよく行かれていた場所にドライブを兼ねて会いに行ったり、知人との再会ができるように援助している。	○	家族の代わりにできる範囲行って行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で気の合わない方もおられる為に、気の合う方達と一緒に場所に、気の合わない方はできるだけ職員が関わりをもち孤立しないように心がけている。又、レクと一緒にする場合も配置を考慮する等の心がけを行っている。	○	団体生活の中でどうしても馴染めない方も中にはおられるが、時が経つにつれ自然と中に入っていく方もおられるので、雰囲気慣れてもらうように職員間で話し合いを行い、お互いを支えられるように努力したいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても家族から相談があった場合等は、電話でのアドバイスを رفتり実際に来荘された時に相談にのっている。	○	退居しても依頼や相談があった場合は今後も支援して行きたいと思っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が希望する事はできるだけ実施し、実施する前に職員間で話し合いを行い、できるだけ本人の意向に添うようにしている。 できない部分は家族に問いかけ話し合いの場を設け本人の意向を尊重するように心がけている。	○	今後も困難な問題は家族、職員と一緒に話し合い本人の希望に添うよう援助したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に家族から生活歴を聞いたり、本人から話を聞く事で以前のサービス利用の理解を得る。又は昔から慣れ親しんだ場所に一緒に行き昔の暮らしぶりを把握する等、一人々の生活歴の把握に努めている。	○	生活歴を知ることでその人の暮らしてきた苦悩や喜びを知る事にもなり共に喜びや悲しみを分かち合う事にも繋がると思う。今後も利用者の方達の生活環境に近づくように努力したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人にできる事、その人の過ごし方にあわせ、心身状態に合わせた作業や役割等工夫し、一日ぼ一つとした過ごし方をさせないように努めている。	○	利用者の方達一人々がレベルも違うのでその人にあった一日の過ごし方を把握していきたいと思っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングの折にプランの見直しを行い、プランの変更を職員、家族と話し合いの上決定する。又、本人の状態により実際に実行できる計画を立て、家族の意向も取り入れている。	○	3カ月～6カ月の期間で見直しを行い、個々の状態で計画の見直し、状態の改善等により本人が毎日の生活が楽しく、安心できるように実際にできる計画を心がけていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体の状況変化があった場合は、主治医、家族の意見を聞き計画の見直しを行っている。	○	毎月の文書での状態報告や面会時に状態報告を行い、状態の変化により計画の見直しは随時行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、日勤、夜勤、主治医、訪問看護、歯科往診、利用者に携わる方全てが同一記録として、家族会の折等に閲覧してもらい情報の共有ができるようにしている。	○	同一記録にする事で、実際に往診があっているか、訪問看護や歯科往診があっているか等、家族が読んでも分かり安心して任せられると思うので今後も続けていきたいと思っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の意向はできる範囲で柔軟に支援し、できない時は家族会、又は運営推進会議の折に相談し要望に応じるようにしている。	○	毎日同じ空間の中で生活している利用者の要望はできるだけ実施していきたいと思っているので、今後も家族会、運営推進会議の役員様に協力をお願いして一緒に要望に応えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向を反映し、ボランティア、消防署、駐在所等の協力をお願いしている。特にボランティアの訪問等は利用者様の楽しみの一つと思うので来荘をお願いしている。	○	今後も地域の方達の協力を得ながら利用者様が安心して暮らせる場所の提供と、毎日の生活を活気あるように援助していきたいと思っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前から利用されているケアマネジャーに来荘をお願いして本人又は家族の意向を尊重している。又、他のサービスを利用する際もケアマネジャーをお願いしている。	○	ケアマネジャーには今後も認定の更新又は、変更をお願いして連携を取っていききたいと思っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は利用される方はおられないが、利用者が入居されれば利用しケアマネジャーの変更もそのままにし、包括支援センターとの関わりも運営推進会議の折等に協力をお願いして本人、家族の意向を尊重したい。	○	今後必要な方が入居された折には利用していきたいと思っている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重すると共に、本人、家族が納得されるまで主治医からの説明、又は、管理者からの説明を行っている。現在、訪問診療をお願いしている主治医により、状態の変化についての説明等も直接行っている。入院、及び検査の依頼も主治医より病院の方に連絡を取ってもらい家族、本人が安心できるように努めている。	○	本人、家族の気持ちを優先的に考えた医療の提供が一番大切だと思う、主治医、家族、他の医療機関との連携にも努めていきたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問診療の主治医は、現在3か所のグループホームを往診されており、認知症についても詳しく入居者の方達の異常にもすぐに対応してもらっている。	○	現状のまま主治医との連携を密にし、入居者の方達の身体的、精神的援助を行なっていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設内に常勤の看護師と、週一回の訪問看護にお願いして、健康管理に努めている。異常がある場合は連絡も行ってもらっている。	○	入居者の健康管理は安心して生活するうえでの基本だと思うので今後も連携を行っていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医、訪問看護、看護師、及び職員が面会を行ったり、退院の日程調整や退院後の管理等を直接聞き、本人が安心して帰れるように努めている。入院時の状態報告を行い、もできるだけ短期間で退院できるように連携に努めている。	○	入院になると入居者、家族の方が又戻れるか一番心配されるので、面会の都度説明を行っていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の話し合いは、主治医、看護師、職員、家族等入居者に関わる人材は全て連携を取りながら、本人、家族の意向、又は終末期のあり方等について、家族会等の折に話し合っている。	○	今後も主治医、家族、訪問看護、看護師、職員が一丸となって取り組んでいきたいと思っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期、重度化された時にホームで看取れる場合と看取れない場合があると思うので、主治医、訪問看護、職員が一丸となって取り組み、ホームの勉強会等に家族も同席してもらい、主治医の講演等をお願いしている。	○	終末期をどのように暮らすか、本人、家族の意向を尊重して安心して暮らせるように援助していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族等の都合上別の居所に移り住む場合は、ケアマネジャーを含め話し合い、移設との連携も行い、情報交換等行っている。又、本人がダメージを受けないように入居者と一緒に同行し面会を行っている。	○	本人の状態が分からず移設先のスタッフが混乱しないように、又は本人のダメージが少なくなるように、情報交換は今後も行っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>本人のプライバシー保護に努め、記録等の個人情報に関しても情報が漏れないように十分配慮して取り扱っている。</p>	○	今後もプライバシーの保護には細心の注意を図っていく。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>本人の希望はできるだけ受け入れ、毎日の生活の中で自分で決める又は、本人が納得できるように本人のペースに合わせた説明をおこなっている。 外出、買い物、散歩、入浴、全てにおいて本人の意向を聞き自分で決定する場面を作っている。</p>	○	入居者にとって自分で決める事は、自分を認めてもらっていると安心すると思う、又生き生きとした表情を見る事が出来る場面でもある。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>場合として仕事を優先しがちであるが、できるだけ本人の希望を優先し、本人のペースに合わせた過ごし方を心がけている。</p>	○	人それぞれにペースも違い、全員のペースに合わせる事は大変なことであるが、一人々のペースに合わせた援助を心がけていきたいと思う。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>洋服の選択、美容院の選択は本人、家族の意向を元に行っている。身体的、精神的に美容室に長時間座る事が困難な方に関しては、来荘の美容師さんをお願いし、外出可能な方は以前から利用していた美容室に行かされている。</p>	○	できるだけ行きつけの美容室を利用してもらい、その人らしいおしゃれを援助していきたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>食材の買い物から準備、後片付けまで入居者、職員が一緒に行うと共に、一人々の好みに合わせた食事の提供を心がけて行っている。 又、昔から食べていた食材を取り入れ懐かしい食事を取り入れている。 例えば、「サツマイモご飯、炊き込みご飯、だご汁等」</p>	○	昔から食べられていた料理は食べている時も生き生きとした表情で会話も弾み食べられる、今後も入居者の希望食を取り入れて楽しい食事作りを行っていきたい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>入居者の方が飲みたい飲料、おやつ等も買い物際選んでもらっている。又、お酒を飲みたいと言われる方には、健康上問題のない程度に飲んでもらっている。 タバコは現在のまられる方はおられないが、以前はのまれる方に場所を決めのももらっていた。</p>	○	本人の日常生活が自宅で過ごされる時と同じように近づけるような援助を行ない、楽しい生活ができるようにしたいとおもっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間帯ははくパンツを使用しても、日中は普通のパンツに尿取りを使用したり、その人の排泄パターンの把握を行い時間を見てトイレ誘導を行い失禁を減らす工夫を行うと共に、本人の自尊心を傷つけないように配慮している。	○	一人々の排泄パターンが違う為に、毎回時の排尿チェックを記録に残し気持ちよく生活してもらうように援助していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌がる方もおられるが、タイミングを見て誘導するとすんなり入られたり、本人の都合に合わせ、10:00から湯を張り午前中、午後本人に合わせた入浴を行い、入浴中は職員が一人付きっきりで会話を行って本人の話を聞く等して楽しんで入ってもらう工夫を行っている。	○	湯は毎日入れており、入りたい日に入浴されるように今後も続けていきたいと思っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、居間で過ごされる時間が多い方、時間を見て休まれる方それぞれですが、本人の体調や本人の希望を優先して行っている。	○	本人の希望を優先して、生活習慣を壊さないように援助して行きたいと思っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前から行っておられた買い物、調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ、それぞれに役割を持ってもらったり、ドライブによる気分転換等日常的に行ってもらい、楽しみ、気晴らしの支援を行っている。	○	日々の暮らしの中で一人々の役割、楽しみをもってもらい活気ある生活を送ってもらいたいと思っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は自分で管理してもらい、家族の面会の折に確認をしてもらっている。 買い物をされる時の表情はホーム内と違い生き生きとした表情を見せられ、ひとつの生きがいでもある為に本人の希望を叶えるよいチャンスだと思っている。	○	本人の能力に応じ金銭管理を行ってもらい、自分で購入する喜びを持ってもらいたいと思いつつも今後も続けていきたい。家族の確認は確実にってもらい本人も安心して使えるようにしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて行きたい場所は必ず行くようにし、毎月のミーティングの折にも外出場所を話し合い、入居者の希望場所を聞いたりして実行している。 時には自宅の墓参り等も行っている。その際は家族の了解を得た上で行っている。	○	一日中ホーム内で過ごす事は認知症状を悪化させる原因だとも思うので今後も入居者の希望を聞いて行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年に1回家族旅行として入居者の方が行きたい場所を決定し、家族、入居者、職員が一緒になって一日を過ごす機会を作ったり、家族と一緒に外出する機会を作ってもらったり、本人と家族が遠くならないような支援を行っている。	○	今後も家族との思い出作り、又は家族との関係が気薄にならないように援助をおこなっていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けるのは自由に行ってもらい、出来ない方は職員が最初手伝い話をしてもらい、家族の安否や家族の面会、自分の衣類を持ってきて等の連絡も自由に行ってもらっている。	○	直接家族の声を聴く事で安心感を持ってもらうので今後も自由に使用できるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、等本人の顔馴染みの訪問は自由に行ってもらっているので、各居室にて長時間でも会話をされている。できるだけ居心地のよい場所の提供に心がけている。	○	家族の面会は常日頃から多く、仕事帰りの20:00頃にも面会に来られ居室で会話されており、今後もいつ来ても良い場所、遠慮なく長居されるような雰囲気のある場所を提供したい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は職員全員が周知しており、研修の参加も行い職員全員が理解している。身体拘束は認知症状の進行に繋がる為に行っていない。	○	今後も研修の参加、報告を行い職員全員が理解をもって入居者に対して絶対に拘束をしないことを義務づけたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室の鍵を掛ける事は全くしていない。急に戸外に出られる方は2名おられるが、常に所在確認を職員が行い、戸外に出られる際は職員と一緒に同行し散歩ついでに会話を行ったり、本人が気のすむまで戸外で過ごされる。	○	見守りを徹底し本人の気分転換の援助と思い、現状のまま鍵をかけない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	急に戸外に出られる方はもちろんの事だが、居室や居間にて過ごされる方達の所在確認は常に行い安全確保に努めている。	○	入居者の方達の所在確認は事故防止にもなり十分気を配り今後行く。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食等の行為がある人は常に気配りを行い、日常生活の中で危険なものはあるが、何でもなおすのではなく職員が注意できるものはその人に応じて防ぐ方法を取っている。例えば「包丁やはさみ」等の使用は見守り、使用後の片付けを徹底して行っている。	○	危険だからと言って昔から使用してきたものを取り上げるのではなく、本人ができる事は見守りを行い使用してもらう支援をおこないたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤薬等は毎日の生活の中で十分注意し、転倒予防に片手引きを行ったり、誤薬を防ぐ為にその人に合った食事の提供をする等その人に合った取り組みをおこなう、又火災、地震、等の訓練も年2回職員と一緒にいたり、常日頃から「火事や水害があった時は、ここに集合です」等の会話を行っている。	○	家族や知人が来荘の折に本人に渡されたお菓子等は、職員に伝えてもらうように伝達し、居室での誤薬がないように心掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内での勉強会の折に、応急処置の仕方や公での研修会に参加して周知するように、繰り返し行っている。	○	事故発生時は誰もが正常ではなくなる為に、繰り返し応急手当等の訓練を行っていききたいと思う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練、地震、水害等の訓練を年2回行い、その際近辺の協力をお願いして一緒に訓練に参加してもらっている。その際の入居者の誘導の仕方等を説明し実際に行ってもらっている。	○	火災訓練の際に、地震が発生した事を説明した上で非難誘導を行い、全員が避難場所まで避難する時間を計ったりする事は、その時に慌てないで行動できると思うので今後も随時行っていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々で違うリスクについては、面会の折や主治医からの説明、管理者からの説明を行い、本人らしい暮らしが出来る様に対応策を話し合っている。例えば「転倒が多く、常に職員の見守りが必要なかた」等には家族と一緒に対応策を考え、精神的にも抑圧感のない暮らしができるようにしている。	○	個々の身体的、精神的状況の説明や起こり得るリスクについては、今後も家族と一緒に考え、話し合いながら本人らしい生活ができるように支援したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常状態の時は主治医、家族へ連絡報告を行い、主治医の指示に従う。又状態によっては家族の同行をお願いして、検査受診等行っている。その際は主治医より事前に検査病院への連絡を取ってもらっている。	○	体調の異常を早期発見できるのは、常日頃の状態観察が重要だと思うので、少しの変化も職員間で話し合い往診時に相談し指示をもらう事が大事だと思うので今後も主治医との連携に努めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人々の服薬の変更は申し送りノート又は、毎朝の申し送りにて周知するようにし、一覧表の確認等看護師より報告を行っている。薬による副作用等は、主治医に聞き看護師より症状の説明を行っている。	○	服薬に関しては誤訳が一番心配なので、飲ませる前に必ず名前の確認を行い、個人の服薬が何であるかの周知を職員全員が理解するように努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢になり便秘の方が多く、毎日の食材に繊維物を取り入れるのはもちろんだが、日中身体を動かしたり、お腹のマッサージを入浴中に行う、又は水分量をチェックする等日頃から心がけて行っている。	○	便秘により体調を崩す方もおられ、今後も水分補給、軽度の運動食物繊維の取り入れ等を行い健康管理に努める。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一日3回の口腔ケアを実施する際、本人の能力に応じ行ってもらい、後磨きを職員が必ず行っている。入れ歯の方は職員が必ず磨き直しを行い、口腔内の汚れ、口臭がないように努めている。又歯科衛生士さんの協力も得て、本人、職員の指導をもらっている。	○	口腔内の汚れ、口臭により食事が進まない時もあるので、毎日の食事を美味しく食べてもらう為に、今後も毎食後の口腔ケアは続けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェックは欠かさず行い、その日の状態により栄養補助食品を入れたり、食事をペースト、刻み等にし本人合わせた食事の提供を行っている。 又栄養計算を行ってもらい栄養バランスに心がけている。	○	毎日の食事、水分量のチェックは今後も行い、その人に合った食事の提供を心がけ、職員間で話し合い統一したケアを行っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して職員全員が理解するように、ミーティングの折に話し合い、食器の熱湯消毒、「床、トイレ、手すり」等は消毒液に漬けて雑巾がけを行っている。インフルエンザは、入居者、職員全員が接種するように義務づけている。	○	感染症により入居者の体調を壊さないように、職員が持ち込まないように常に心がけていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や調理場の消毒は、一日の終わりに熱湯消毒を行い、布巾は毎食後に消毒液に漬けて、他の衣類とは別に干している。食材に関しては、毎日午前中に入居者の方と買い物に出かけ、新鮮な食材を提供できるように心がけている。	○	今後も毎日の食材購入は入居者の方と一緒に決め、できるだけ新鮮な物を提供するようにしたい。 又食中毒がないように毎日の予防を行っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族、近隣の方が立ち寄りやすい雰囲気、又、玄関はいつも開放している。 夏場は網戸にしホーム内が見えるようにし、立ち寄った際縁側からでも声を掛けられるように、できるだけ締め切らないにしている。	○	玄関の鍵は今後も掛けず、誰でも出入りしやすい雰囲気作りに努めていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に椅子を置き、外を眺めたり、入居者同士で話す場所、台所、居間には常に誰かがいる場所となり、浴室の入り口には暖簾を掛け中が見えない工夫をし、浴室の椅子に座り会話されたり、昔から馴染みの障子等を使用して心地よい空間作りに努めている。季節感を感じてもらうように、その月の貼り絵を職員、入居者と一緒に作成し居間や廊下に張り出している。	○	現在も居間で過ごされる方が多く、居間にいる時間が長い程色んな創作ができる。 又一緒に過ごす事で入居者同士の会話も自然に弾んでおり、入居者と職員がゆったりとした時間を過ごす場所を今後も続けていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で長椅子で会話したり、各居室に一緒に入り会話を楽しまれたり、天気の良い日は庭にある東屋まで行き会話されている。 その日の体調により居室で過ごされたり思い々に日中を過ごされている。	○	自分の時間や入居者同士で過ごす時間は、その人それぞれ違うがその人に合った過ごし方を提供する場所でもある為に、今後も強要せず本人が心行く場所での過ごし方をされるように見守りを行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をできるだけ持ってきてもらい、使い慣れた物、自分の好みの物を使用してもらい、部屋も自宅にあった物を使用してもらっている。できるだけ施設ではない自宅にいるような気分を味わい安心して生活できるように家族と相談しながら行っている。	○	自分の部屋だという自覚ができるように、使い慣れた物を置くことで安心感が出ると思う、できるだけ本人が安心した生活ができるように今後も家族、本人と話し合いながら居心地の良い場所の提供を行っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の温度調整は元より、居間、台所等の調整は必ず行い、ホーム内の換気にも心がけ定期的に戸を開けたり、雨の日や寒い日等は換気扇を使用し、嫌な臭いや空気のおよみ等ないように常に心掛けている。	○	毎日の生活の中で気づかない臭い、空気のおよみ等がないように、家族、外部からの面会者、入居者の方々が過ごしやすい環境整備に努めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人々が身体的にレベルが違う為に、段差解消、手すり、等の設置を行い、身体的低下予防に努め、各部屋では本人が動くスペースにできるだけ物を置かないように心がけ、転倒予防を行い自立した生活が送れるように工夫している。	○	身体の状態に合わせて過ごしやすい環境を作り、身体的低下予防に今後も努めたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の能力に合わせた毎日の暮らし、混乱しないように職員の心配りで一緒に行動、作業を行い、失敗し自尊心を傷つけないように言葉掛けに十分注意し、自信をもって生活できるように支援している。	○	自信を持つ事は毎日の生活を生き生きと暮らす事ができると思う、本人らしい生活、自信をもって生きる基本だと思うので、何事においても「認める、受け入れる」を信念にし入居者の方が自立した生活が送れるように支援したい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭が広いので食後の散歩、東屋でのんびりと寛ぐ等、入居者の方が思い思いの利用をされている。	○	庭の散歩には職員も同行し季節の花や木を眺め季節感を感じてもらおうよい場所となるように努めたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一日の流れにより、戸外へのドライブ、四季を通しての戸外への見学、地域で行われる行事への参加、近隣の施設交流を行う事で入居者の方々の生き生きとした表情を伺う事ができる。又、一年に1回ではあるが家族と入居者、職員と一緒に家族旅行も楽しみのひとつである。

3カ月に1回の家族会で一緒に行く「おはぎ作り、夏祭り、焼肉会」等も楽しみの一つで、一緒に過ごす時間を作るのも施設の役割だとおもっている。入居者一人々が家族との触れ合いを楽しみに生活される支援を今後も行っていきたくと思っています。